

## V. その他の活動報告

### 1. 佛教大学「鷹陵祭」総合研究所活動報告ポスター展示

日 時：2015 年 10 月 30 日(金)～11 月 1 日(日)、11 月 9 日(月)～11 月 20 日(金)

場 所：佛教大学紫野キャンパス、二条キャンパス

内 容：2015 年度ともいき IPE プロジェクト活動報告

これまでのともいき IPE プロジェクトの活動概要について、ポスター展示を行った。

ポスターの内容は、研究目的と研究方法概要、これまでに実施した内容（キックオフ講演会、TC 入門講座、日本保健医療福祉連携教育学会（JAIPE）への参加、日本保健医療福祉連携教育学会（JAIPE）への参加）について、まとめて発表した。

### 2. 理学療法・作業療法・看護学科合同ゼミ発表会

#### 1) 3 学科による合同ゼミ発表会の趣旨

多職種連携実践（以下、IPW）は、多様な職種がチーム形成し目標に向かって連携し、協働する技術であり、現在では、医師や看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士等の国家資格として位置づけられるものばかりでなく、ケースワーカー、民生委員、児童委員、ホームヘルパー、職業カウンセラー等様々な分野にかかわる職種にも広がりを見せている。

IPW は、多様化するニーズに対して、専門職だけでなく家族やボランティア、地域住民等支援者を含むネットワークが重要とされている。利用者のメリットとしては、それぞれの職種の専門性や複眼的な視点で取り入れられ、包括的なサービスがいけられる点であり、関わる専門職としては、1 人で支援する場合と異なり、様々な職種の視点からアドバイスを受ける事ができ、支援上の困難を共有し、受け止めてもらえるという利点がある。

IPW を行う上で、基本的な視点として、チームの成員相互のコミュニケーションを通して、信頼、協働できるパートナーシップを醸成させることであり、専門職のそれぞれが独白の視点で評価し、目標の共通理解と課題達成のために役割分担を明確にすることが必要です。

これらのスキルを習得するための第一歩として、卒業研究の成果を発表することで、それぞれの職種の独自性と互いの共通性を理解し、多職種連携を形成するための一助となることを目的として、2016 年度から 3 学科合同発表会が企画された。

## 2) 合同ゼミ発表会の概要

### (1) 2016 年度合同ゼミ発表会

日 時：2016 年 12 月 19 日(月)12：50～14：20

場 所：開催場所：二条キャンパス N 1-202

プログラム

- ・ 開催挨拶、進行説明（司会者より）
- ・ 発表

	テーマ	学科
1	ピラティス呼吸と腹部引き込み運動における腹横筋収縮に及ぼす影響について	理学療法
2	胸腰筋膜の緊張が腹横筋の収縮に及ぼす影響について	理学療法
3	青竹踏み運動が重心動揺に与える影響について	理学療法
4	精神疾患を呈した対象者の退院必要な要素についての検討	作業療法
5	リハビリテーション意欲を引き出す声かけについて	作業療法
6	不慣れな環境におかれた高齢者に対する安心・安全に配慮したせん妄予防ケアの実施とその効果	看護
7	認知症高齢者に対するパーソン・センタード・ケアによる身体抑制の最小限化を目指して～パーソン・センタード・ケアを意識した関わりから～	看護
8	誤嚥性肺炎を引き起こした高齢者に対する継続的な口腔ケアと摂食嚥下訓練実施の効果	看護

- ・ 質疑応答・意見交換
- ・ 参加者からの講評

### (2) 2017 年度合同ゼミ発表会

#### ①合同ゼミ発表会の概要

日 時：2016 年 12 月 19 日(月) 12：50～14：20

場 所：二条キャンパス N 1-207

プログラム

- ・ 開催挨拶、進行説明（司会者より）
- ・ 発表

# V. その他の活動報告

	テーマ	学科
1	大内転筋と外旋六筋の筋力トレーニングが片脚立位の重心動揺に与える影響～軸脚ターンアウトの場合～	理学療法
2	体幹筋トレーニングによる走動作回復期における「脚の流れ」動作の改善について	理学療法
3	内在筋筋力トレーニングによる握力への影響	理学療法
4	難聴の有無が聞き取り仮題下における重心動揺に及ぼす影響	理学療法
5	日本における精神障害者差別と偏見	作業療法
6	母親が妊娠中に運動を継続できた背景	看護
7	母親が育児を円滑に行うためのソーシャルサポートに関する事例研究	看護
8	誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者のケア—終末期の全人的な苦痛緩和に焦点を当てて	看護
9	認知症高齢者の活動意欲向上をめざした強みを引き出すかわり～ストレングス・マッピングシートを用いて～	

## ②合同ゼミ発表会についての感想・意見

先述のともいき IPE プログラム実施3ヶ月後のインタビューにおいて、合同ゼミ発表会関しても聞き取りを行っており、その結果について作業療法学科学生と看護学科学生から話された内容をまとめて示す。

### ※合同ゼミ発表会に参加しての感想

- ・一部しか聞いていないが、1人の患者様に対してのチーム医療という考えが広がった。
- ・医療職だけではない連携のことも学べた。
- ・作業療法学科でただ1人の発表者だったので緊張したが、他学科の学生が興味をもって質問してくれたことや、看護学科の人に「自分達が学んだり興味のある部分と近い所があって嬉しかった」と言ってもらって自分も嬉しくなった。
- ・看護学科学生が「リハ職をひとくくりに見ていたイメージが少し変わった」といっていて嬉しかった。
- ・理学は数字を使う研究が多く、よくわからなかった。
- ・発表時間が10分と短かったので専門用語が分からず十分理解できなかった。  
(他学科の人に分かる様に発表の工夫が必要だと思った)
- ・発表時間が少なかった。
- ・他学科の研究は、看護と対象者や研究内容も違うことが分かった。
- ・資料が無かったので、パワーポイントを見て発表を聞いて、内容が残らず終わってしまった。
- ・知らない人の前で発表するのに凄く緊張し、初めて聞く人にこの内容で伝わるか不安であったが、良い経験ができたと思う。

- ・ 今後、この経験が必ずプラスにつながると思う。参加して良かった。
- ・ 9月の研修会と12月とも、参加した人がほぼ同じだったのもっと広く色々な人が参加してもらえたら良いと思う。

❖ 合同ゼミ発表会への参加について

- ・ 時間の都合で私は友人の発表時のみ参加したが、他の学生は入りづらくて参加できなかったと  
きく。
- ・ 少し堅苦しさを感じた（扉は開放でも良かったのでは?）。
- ・ 理学、看護がどのような実習をしているか気になっていたので良い機会だと思う。
- ・ 学生同士が意見交換できる時間がたくさんあると良かった。
- ・ 自分達の学科の授業で話をしているだけでは分らない他職種の考え方、専門性を知ることがで  
きるためとても貴重な時間だと思った。